

③1 無形文化財 田植唄・篠窪の麦打唄

無形文化財 田植唄

小田原周辺に広がる酒匂川流域の水田で、昔田植のときうたわれた田植唄です。この田植唄の源流は京都から大阪にかけての淀川筋で生まれたと言われ「閑吟集」という永正15年（1518）年に完成した歌謡集の中に登場する古い唄です。北陸路より新潟をへて関東に入り群馬、栃木県に足跡を残しこの周辺に至り、のち箱根を越え御殿場より山梨県南部都留方面にまで伝わっています。

田植唄

唄の一部
○朝起きて
若殿エー様の
ヤーノ顔見れば
顔見れば
朝日がエーさして
ヤーノ桜色

○今日の田の
田主のエー家の
ヤーノ破風見れば
破風見れば
鶴亀エーさして
ヤーノお酒盛

町指定重要文化財 昭和51年11月11日指定

篠窪の麦打唄

無形文化財 篠窪の麦打唄

唄は素朴で親しみやすく、麦打ち台で麦を打つリズムに合わせて唄われたものです。この「麦打唄」は文化文政の頃（1804年～1829年）、秦野地方から篠窪に伝わったといわれています。当時は主作物にたばこ、落花生と並んで大麦、小麦が作付けされていており、毎日のきびしい労働から生まれてきたもので、典型的な作業唄です。

唄の一部
○雲らば雲れ
箱根山
晴れたとて
お江戸の宿は
みえやせぬ

○思いもよらぬ
伊勢土産
姉にや帯
妹にや紺の前掛
以下略

町指定重要文化財 昭和50年2月8日指定

